

鳥取市立瑞穂小学校 学校視察概要

◇日 時 令和元年11月20日(水)
午後1時15分～午後3時30分

◇場 所 鳥取市立瑞穂小学校

◇参加者 委員8名

◇概要

○授業参観

○学校説明(校長・鳥取市教育委員会主幹)

- ・瑞穂という名のとおり、四方八方を田んぼに囲まれた米どころである。
- ・学校教育目標は「進んで学び、心豊かに、チャレンジを続ける瑞穂っ子の育成」であり、特にチャレンジを続けるということを大切にしている。
- ・創立146周年で児童数は49名。
- ・学級数は5つで、4年生と5年生が複式学級となっている。
- ・近隣に浜村小学校、宝木小学校、逢坂小学校があり、瑞穂小学校と逢坂小学校が小規模転入制度を取り入れている。こうした自然に恵まれた環境の中で学ばせたいということであれば、例えば大規模校から転入してもすることができる。ただし、送り迎えは保護者が行う。
- ・校歌の歌詞に「200の健児ここに集いて」とある。一番多いときは昭和23年で243名いた。だんだん減少して昭和51年には55名まで減った。隣の宝木小学校と合併をしてはということも検討されたが、9号線に団地が造成されて急に増え出して、昭和62年には150名ぐらいとなった。校舎が手狭になったということで昭和63年にこの新校舎が建てられた。
- ・すべての教員がすべての学級の担任だという意識で対応している。
- ・協力して学習課題にチャレンジということで、ペアやグループの学習を取り入れ、少人数の強みを生かし、弱みを克服して取り組んでいる。
- ・MTH(みずほ とくいなこと はっぴょうかい) といって、自分の得意なことを全校の前で披露する取り組みをしている。とかく小規模校の子ども達は引っ込み思案、人前での表現が苦手といわれるので、そういった部分を日頃から鍛えようと取り組んでいる。バイオリンをしたり、ダンスをしたり、漢字の書き取りをしたりして、みんなの前で発表している。
- ・全校スピーチや音読会などで発表する機会を増やすようにしている。
- ・米やはま茶、しょうがなど、地元の特産品に関わる活動を地域の人にお世話になりながら取り組んでいる。
- ・子どもたちが「瑞穂をさらに住みよい町にするにはどうしたらいいか」考え、地域の人に提案する機会を設けている。
- ・地域の方にお世話になりながら掲示板を作成し、学校の行事をQRコードで見てもらえるようにしている。



- ・ホームページを毎日更新して、家庭や地域への発信している。
35家庭だが毎日アクセスが100を超えている。
- ・気高中学校区の4小学校が連合で修学旅行や宿泊学習を行い、中学校に入った時の仲間づくりがスムーズに行くようにやっている。また、逢坂小学校の児童がやってきて、お互いに一緒に学習することに取り組んでいる。全ての学年で交流機会を設けている。
- ・外国の方やスペシャリストの方を招いて、いろいろな方と出会う機会を設けている。



○主な質疑応答

□体育や音楽等はどのように行っているのか。

→逢坂小学校の児童が来て一緒にするということもあるが、基本は2学年合同で行っている。学習発表会における、音楽関係は全校で行っている。午前中は小学校の学習発表会、午後は地域の芸能発表会を行っている。運動会は、地域と合同で行っている。

□教室に入って、机が広くてとてもいいと感じた。教室も体育館も広くて本当に恵まれている。子どもたちにとってすばらしい環境と思った。地域の協力を得ながらいろいろな体験をしており、小規模校のよさを感じた。

→地域の教育熱を感じている。校舎の規格も中学校並みとなっている。ここ4,5年、大体これくらいの人数で推移することが予想されており、来年度は6名が入学する。

□低学年の机が、講義のように前に向かうのではなく、ぐるっと並んでいた。何か工夫をしているのか。

→教師に向かったのやり取りでなく、友達同士が互いに向かい合って意見交換できるようにそのような形にしている。低学年だけでなく、高学年であっても、話し合いの時間になればそのような形にしている。

□今後のことを考えて地元の方で何か話し合っているのか。

→気高中学校区の4つの小学校区で、それぞれ検討委員会を立ち上げている。その4つが集まって連絡協議会を開催し、協議をしている。市教委はオブザーバーとして参加し、データの提供などをさせてもらっている。(鳥取市教育委員会回答)

□4小学校の検討委員会は、検討してはどうかと市教委が話をもってきたのか。

→校区審議会の中間まとめを受けて、住民の方から立ち上がった。人数としてはこれから増えることがないので、そうなったときのメリット・デメリットを勉強したいということで始まっている。

(鳥取市教育委員会回答)